

2018年度理事長所信

一般社団法人中津川青年会議所
第64代理事長 鳴海 宏樹

“今を生きる” 輝かしき未来へ向けて

～真のJAYCEEによる 新たな中津川（まち）の創出～

～はじめに～

「新日本の再建は我々青年の仕事である」

1949年、戦後の混沌とした時代背景の中、責任感と情熱をもった青年有志たちにより青年会議所運動がはじまりました。それから6年後の1955年11月3日、ここ中津川でも青年会議所運動の灯がともり、本年で64年目を迎えます。これまでに「明るい豊かな社会」の実現を理想とし、誰かの幸せを願い、先駆け、活動をしてこられた先輩諸兄への感謝と敬意を忘れることなく、「英知と勇気と情熱」をもったJAYCEEとして、その想いを継承してまいります。

現在の日本は、多くの社会的問題が山積しており、中津川に目を向けても、2027年リニア中央新幹線開業という明るい話題はあるものの、様々な問題があることは事実です。そのような中で、私たち青年会議所が理想とする「明るい豊かな社会」を実現させるために、私たち一人ひとりに、今何ができるのでしょうか。

私の人生の中で大きな転機を与えた出来事があります。2011年3月11日に発災し、多くの尊い命が奪われた「東日本大震災」。今でもあの時の光景が、私の中で昨日のこのように感じられます。もちろん自身があの地にて直接体験したわけではありませんが、多くのメディアにより目の当たりにした惨状は、現実起こっていることとは信じがたいものでありました。そのような中でも、誰の要請を受けた訳でもなく被災地に駆けつけ、また全国各地から自らのできることを考え、主体的に行動する多くの人の姿は、私たちが想い描く理想の社会に導く人の姿だと感じます。

そしてあの日以来、私の中で生きることの意味、「生きていることの喜び」と同時に「生かされていることの使命」を感じ、私には何ができるかを強く考えるようになりました。私たちは、目まぐるしく変化する時代を生きています。時に苦しみ、悩み、辛い時もあるかもしれませんが、生きているからこそできることが必ずあるはずで、それは勝手な自分の思いこみかもしれませんが、誰かのために自身の存在が影響を与えられたのなら、その使命は果たせるのではないのでしょうか。現状抱える多くの問題を瞬時に解決することは難しいかもしれませんが、今を生きる青年として、目を背けることなく立ち向かっていき

ましょう。そして、幾度となく困難に立ち向かい、様々な壁を乗り越えるための運動を起こしてきた歴史ある青年会議所だからこそできる運動を通して、まち・人へと影響力のある団体・人財へと成長していきましょう。その先には必ず「明るい豊かな社会」があると信じて。

～市民が誇れるまち「中津川」を目指して～

『好機に巡りあった時には、しっかり努力しなさい。

好機を逃して志を無駄なものとしてはいけない。』

(幕末の志士 吉田松陰)

古くは東西を結ぶ中山道の宿場町として、この国の商業と文化の重要な役割を果たしてきた中津川。多くの人が行き交う中で、様々な文化を取り入れ、このまち独自の文化を作りあげてきたからこそ大きな発展を遂げ、今の中津川があるのではないのでしょうか。そして近い将来、同様の機会が中津川に訪れようとしています。

2027年リニア中央新幹線の開業に伴い、中津川に中間駅・車両基地の建設が決まり、まち、そしてこのまちに住み暮らす私たちに大きな変化をもたらそうとしています。過去に遡れば、多くの先達のこの地に対する想いが、いよいよ形になろうとしています。だからこそ、私たちが未来の中津川を真摯に考え行動を起こさなければ、これまでに携わった方々の志を無にしてしまいます。この機会は私たちに与えられた使命であり、まちにさらなる発展をもたらす絶好の機会と捉え、志高く行動することで、次代を輝かすことができると信じます。

しかし現状は、行政、少数の団体が2027年を見据え、まちの発展に寄与すべく様々な取り組みを行っている一方で、「リニア」という言葉は認知されているものの、まちの発展にまで注視している市民は少ないと感じます。中津川には、過去・現在を象徴する歴史文化・伝統が数多くあり、そして何よりこれから中津川の未来を象徴すべき「リニア中央新幹線」を中心とした、まちのさらなる発展が考えられます。だからこそ、中津川に住み暮らす人が強くまちの発展を望み、行動しなくてはなりません。「まちづくりは、ひとづくりから」といわれるように、住み暮らす人々の意識向上を図ることができなければ、まちの発展はないといっても過言ではありません。そして意識向上を図ると共に、行動に移せる機会の提供が必要となります。私たちが、2015年に中津川青年会議所として掲げた「交創」というビジョンを基に、「市民協働型のまちづくり」運動を展開していきましょう。その中で、過去・現在の中津川を礎に、未来の中津川をイメージし、県内外、世界へと誇れるまち“中津川 (NAKATSUGAWA)”を目指しましょう。

～誰の心にも繋がるふるさとのまつり「おいでん祭」を目指して～

「誰の心にも繋がるふるさとのまつり」を目指し、本年度で32回目を迎える「おいでん祭」。中津川市の夏の風物詩の一つとして、市民への認知度は高まっているのではないでし

ようか。その要因には、これまでに様々な手法を用いて、「おいでん祭」を中津川市内に広める運動を展開してこられた、先輩諸兄の功績があるからこそだと考えます。

一方、市外で「おいでん祭」が地域のまつりとして自信をもって発信できる市民は少ないと感じます。また中津川と聞いて、「おいでん祭」と答える市外の方も少ないのではないのでしょうか。「おいでん祭」で行われる「風流おどり」は、中津川に数多く残る歴史文化を代表する1つであり、また地域コミュニティの希薄化が進む現代社会において、老若男女問わず多くの市民が携わるまつりだからこそ、県内外問わず多くの地域、人への発信を通して、来場していただくことで、さらなる「おいでん祭」の価値を高められると考えます。そして、自ずとまつりに参加・参画する市民にとっても地域を誇れる代表的なまつりへと繋がると考えます。その誇りこそが、「誰の心にも繋がるふるさとのまつり」に昇華させると信じます。

私たち青年会議所メンバーは、これまで実行委員会の中心となり「おいでん祭」を牽引してまいりました。だからこそ、誰よりも「おいでん祭」に誇りをもっているのではないのでしょうか。先輩諸兄から受け継いだ志を礎に、多くの市民を巻き込み、「おいでん祭」のさらなる可能性を創出していきましょう。

～未来を担う子どもへ向けて、地域と共に育む青少年育成～

『子どもの成長を担うのは、私たち大人の責務である』

現在の日本は、私たちが子どもの頃と比べ、経済的にも物質的にもさらに豊かになっているのではないのでしょうか。そのような中で、子どもを取り巻く環境も急激に変化しており、SNS・インターネット等の発展により住み暮らす地域だけでなく、国内外の多くの情報を知ることができ、また人との繋がりをもつことのできる便利な時代になったといっても過言ではありません。このことは、子どもの将来を考えたとき、様々な選択肢を増やしてくれる一翼を担うかもしれません。

一方、このような発展が青少年期に成長していく上で必要となる直接的な人と人との関係構築、様々な体験を通して得られる感受性を育む機会の妨げになっているようにも感じます。人は人と接することで、思いやりの心、感謝の心、敬う心などの多くの「心」を育み、自身の五感を活かした体験から得られる「知識・経験」こそが、未来へのかけがえのない財産になっていくと考えます。現在の環境を構築したのは子どもではありません。今を生きる私たちがこの環境を形成しています。だからこそ、現在子どものおかれている環境が、この地域、日本の未来にとって最良なものなのかを考え、育成に努めなければならないと考えます。

中津川市教育委員会の小学校・中学校教育方針に「生活・学習における基礎基本の習得とたくましい子の育成」と謳われています。その中で、「家庭・地域と一体となって、生命を尊重する心や規範意識を養う等、心の教育の充実」という言葉の通り、学校だけでは解決しない課題が多くあるのではないのでしょうか。私たち青年会議所メンバーも、行政・学

校・地域・家庭との連携を図り、大人として子どもに成長の機会を与え続けていきたいと思います。

～地域に必要とされる唯一無二の団体、次代を切り拓く真のJAYCEEを目指して～

この国、住み暮らす地域の発展に寄与すべく、様々なまちづくり活動を継続的に行ってきた青年会議所ですが、この団体の顔となるのは私たち一人ひとりであり、私たちの生き方が青年会議所の価値を決めるといっても過言ではありません。もちろん、一人ひとりを取り巻く環境は同じではありませんが、青年会議所メンバーとしての志は同じだと信じます。だからこそ、「個」の成長なくして団体の成長は望めないということ、すなわち地域への革新的な進化を与えられない、市民に必要とされる存在になれないという覚悟をもって活動していきましょう。

『最初の一步を踏み出すこと。あとから結果はついてくる。もちろん希望どおりの結果とは限らない。でも踏み出さない人に、結果は決してやって来ない。』

青年会議所は様々な成長の機会を平等に与えてくれます。その機会を掴むのはあなた次第です。青年会議所という看板の下にいただけでは、何も成長しないということを自覚し、自身の行動に繋げていただきたい。行動しなければ何も始まりません。

また、私たちは活動を行なう中で、まちの発展に妨げとなる問題に常にアンテナを張り、その問題が次代に対しどのような影響を与えるのか考える必要があります。それには、日々の社会情勢に目を向けることが重要です。近年の中津川青年会議所は、未来を思い描くための運動は多く展開していますが、少し現状把握が苦手ではないかと感じます。まちづくり運動を展開する中で、常に多角的にまちの現状を把握しなくては、私たちの運動が空想となってしまうのではないのでしょうか。その中でも、まちづくりを進める中で、直接的に影響を及ぼす経済・政治からも目を背けてはならないと考えます。現在・次代へとまちづくりを牽引する人財になるべく、様々な修練を通して成長していきましょう。知識・経験・行動力を伴い、強い想いで理想を実現に導ける人財こそ、「真のJAYCEE」であると考えます。そして、そのような人財が集う団体だからこそ、地域に必要とされる唯一無二の団体であることを信じて。

一方で、私たちの運動を広くまち・人に展開するには、一人でも多くの同志の存在が必要となります。そして、私たちが先輩諸兄の想いを受け継いできたように、次代へと引き継がなければ、これまでの青年会議所の存在自体を否定することになるかもしれません。近年、全メンバーで取り組んできた会員拡大の方法と結果を検証し、現在の状況を自覚し、危機感をもって新たな人財の発掘に、全メンバーで取り組んでいきましょう。

～おわりに～

青年会議所に入会して、私は今日まで多くの経験をさせていただきました。多くのメンバーとの出会い、青年会議所に入会しなければならない体験、そして何より国、地域、物事に対する考え方への変化を与えていただきました。それは自らの人生にとっての財産であり、青年会議所だからこそ得られた、この団体のもつ素晴らしい価値だと確信しています。

青年会議所活動は、あなたに必ず変化をもたらしてくれます。40歳までの限られた時間の中で、メンバーとして活動に対してどれだけ真摯に向き合うかで、その大きさは変わってくるはずです。だからこそ、貴重な時間を費やすのであれば、自身でできる範囲を定めるのではなく、一步でもその先の自分に挑み、可能性を広げていただきたい。その行動こそが、必ずあなたを成長させ、人生にとって価値あるものとなることを約束します。

共に歩もう、「次代を切り拓くのは、私たち J A Y C E E である」という気概と信念をもって。中津川の輝かしき未来に向けて。

<運営方針>

- ・“今を生きる” J A Y C E E として自覚ある行動
- ・個々の輝きを活かし、人間味溢れる委員会運営
- ・地域に誇れる L O M 運営
- ・青年会議所の価値を高める情報発信

<運動方針>

- ・市民協働型社会の実現に向けたまちづくり運動
- ・地域と共に育む、感受性豊かな青少年の育成
- ・次代を切り拓く、真の J A Y C E E の育成